

子育て支援施設利用者のニーズに関する経年比較分析

—— 下関市次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」
利用者調査から ——

桑 畑 洋一郎

要 旨

下関市次世代育成拠点支援施設である「ふくふくこども館」の利用者調査の経年比較分析を元にして、第1に次世代育成支援拠点施設が地域に定着していく過程において利用者の実態と意識がどのように変化しているのか、第2に子育て支援拠点施設の利用者たちが持つ子育て支援ニーズがどのようなものでどう変化しているのかを明らかにした。結果、第1には、「ふくふくこども館」が遊びの場として認識されていること、第2には下関で提供されている子育て支援サービスは、ある程度充実しているとはいえ完全ではないということが示された。前者の結果については、そうした認識があるべき形なのか規範的議論が必要となろうし、後者の結果については、さらなる充実に向けた議論が必要となろう。

キーワード：子育て支援 次世代育成支援拠点施設 子育て支援サービス

1. はじめに

本稿は、下関市次世代育成支援拠点施設である「ふくふくこども館」における利用者調査の経年比較分析を元にして、第1に次世代育成支援拠点施設が地域に定着していく過程において利用者の実態と意識がどのように変化しているのか、第2に子育て支援拠点施設の利用者たちが持つ子育て支援ニーズがどのようなものでどう変化しているのかを明らかにするものである。

本稿に先立つ論考（桑畑 2014）（桑畑 2015）でも示してきたように、育児を個人や家庭が担うのではなく、社会が担う「社会化」（松木 2013：12）と、そのための子育て支援施策や施設の充実が必要とされている。具体的には、1989年の合計特殊出生率が1.57となって以降積み重ねられてきた、少子化を食い止めるための諸政策もこうした文脈の元に理解されよう。とはいえ、政策が積み重ねられて、本稿で対象とする「ふくふくこども館」などの諸施設も作られていく一方で、少子化が食い止められているとはとても言えない状況にある。

そこで本稿では、先立つ論考と同様に、次世代育成支援拠点施設の利用者調査を元にして、彼／彼女らの実態と意識を経年比較していくことにより、子育て支援施策・子育て支援施設のあるべき形を提示することを目的とする。このことには、第1に、今後のあるべき社会福祉を構想することへの示唆を導き出さうという福祉社会学的意義がある。もちろん本稿で扱うものが下関市の

施設利用者という限定的でランダムでもない調査である以上、育児をしている者全体を代表するものとはなりえないのだが、幾許かのヒントを示すことにはつながるであろう。第2に、今後のあるべき保育者養成への示唆を得られるという保育学的意義がある。「ふくふくこども館」でも保育者が勤務している。ゆえに「ふくふくこども館」利用者調査を分析することは、次世代育成支援拠点施設において保育を提供する者がどのような存在であるべきか、保育者を養成していく上での重要な知見を得ることができるだろう。以上2点の意義が本稿にはある。こうした点で本稿は、(勝浦・福岡 2003) (勝浦・福岡 2004) (勝浦・福岡 2008) などの研究と軌を一にするものであり、これら他地域で得られた結果との比較も行われるべきものであろう。

なお本稿は次の構成を取る。続く第2章では、まず2016年度調査の結果を記述する。第3章では、2016年度調査と、それ以前に実施された2014年度・2015年度調査の結果を、重要と思われるものについて複合／比較しながら記述していく。第4章では、以上の記述から得られた考察を示すこととする。

2. 2016年度調査結果の記述

(1) 2016年度調査の概要

ここからは、2016年度調査の結果を記述していくこととする。

まずは2016年度調査の概要を述べたい。調査は、2016年9月1日から30日にかけて、「ふくふくこども」館の来館者に調査票を配布し、調査協力を依頼する形で行った。配布時には、今年度既に調査に回答していないことを確認の上配布している。したがって、k2016年度調査の中では重複している回答者はいないが、これまでの2014年度・2015年度調査には応えたことがある回答者が入っている可能性はある。また、サンプリングは全く行っていないため、結果については留意が必要である。回答は自記式である。有効回収率は48.0%であった(144通/300通)。ただし、設問によっては無回答があり、集計からは無回答を除外しているため、設問ごとに回答総数は異なる。なお、調査票については末尾に付録として記載した通りである。

(2) 2016年度調査結果の記述

ここからは、2016年度調査の結果を記述していく。

回答者の続柄

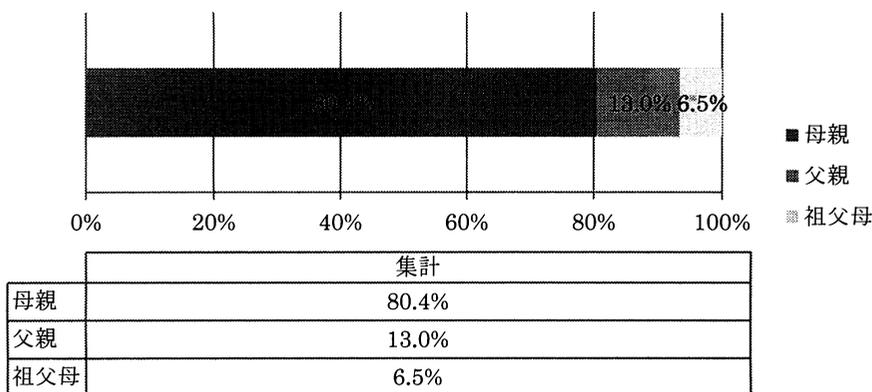


図 1：回答者の続柄 (n=138)

回答者の年齢

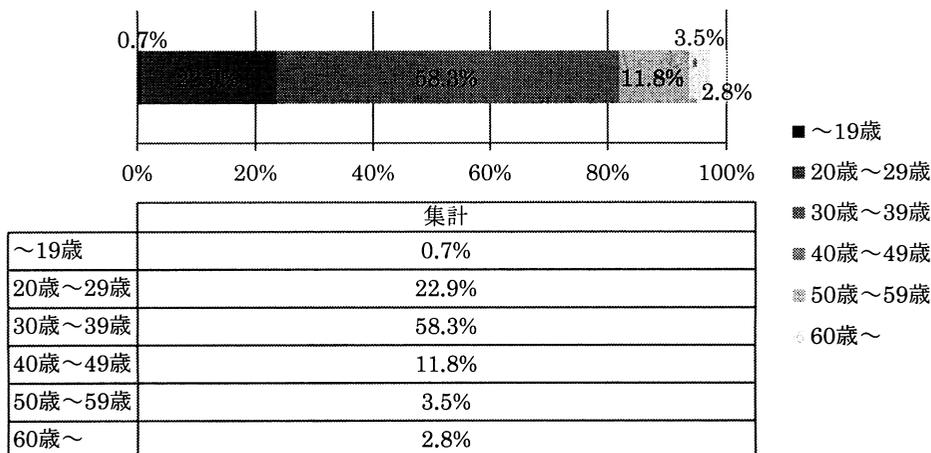


図 2：回答者の年齢 (n=144)

回答者の居住地

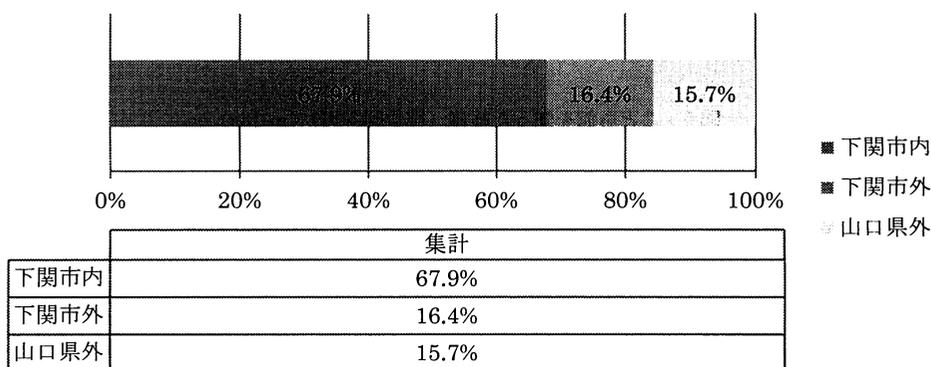


図 3：回答者の居住地 (n=140)

回答者の就労状況

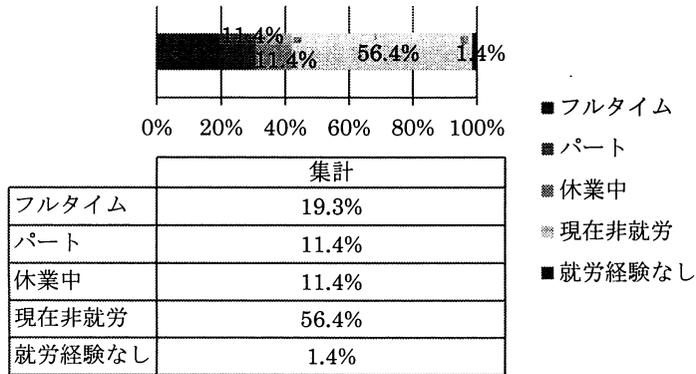


図4：回答者の就労状況 (n=141)

基礎的な項目の結果については上記の通りである。また、子どもの人数は平均 1.52 人、子どもの年齢は平均 2.12 歳⁽¹⁾であった。

続いて、ふくふくこども館に対する利用状況と意識を見ていきたい。

こども館を知った経緯

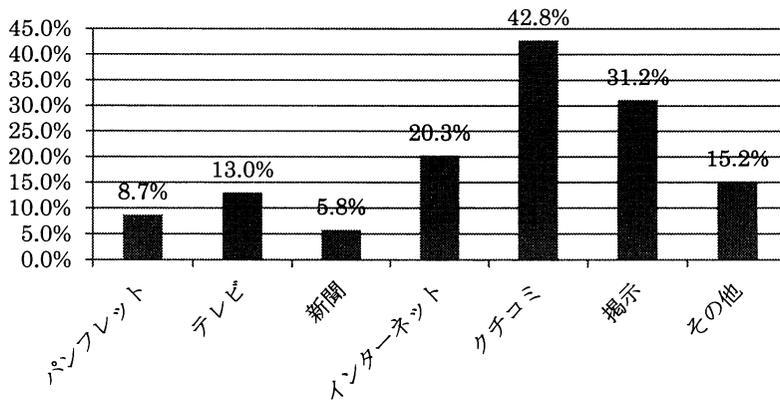


図5：こども館を知った経緯（複数回答可）(n=139)

来館回数

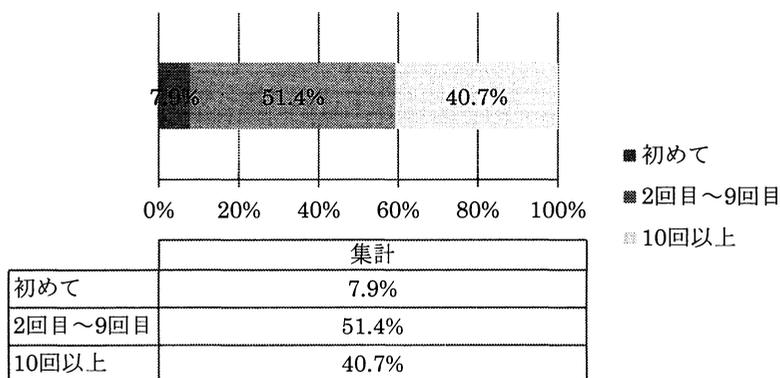


図6：こども館への来館回数 (n=141)

満足度

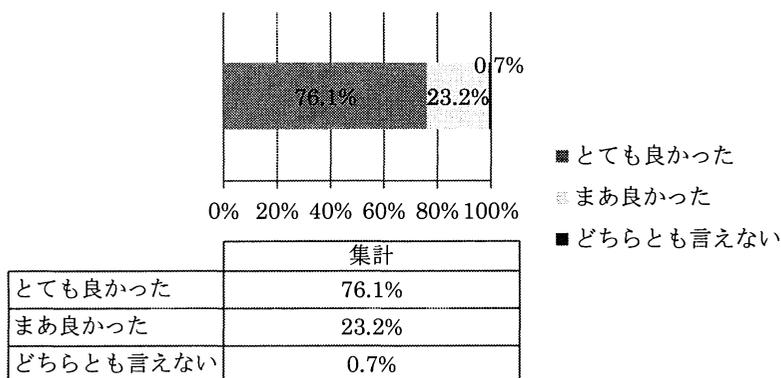


図7：こども館の利用満足度 (n=139)

2015年度調査に続き、今回の回答者も9割がリピーターとなっていた。来館者のほとんど全てがリピーターであるということが明らかである。また、利用満足度は「とても良かった」と「まあ良かった」を合計すると9割以上に達し、非常に高い満足度を得られているように思われるが、これも2015年度調査と同様にリピーターだからこそ満足度が高い（あるいは満足度が高いからこそリピーターになっている／満足度が低い人々は来なくなっている）可能性を考慮する必要があるだろう。

また、満足度が高いからと言って全く改善を要しないわけではなく、続く設問では以下のような改善を要する点が指摘されている。

改善を要する点

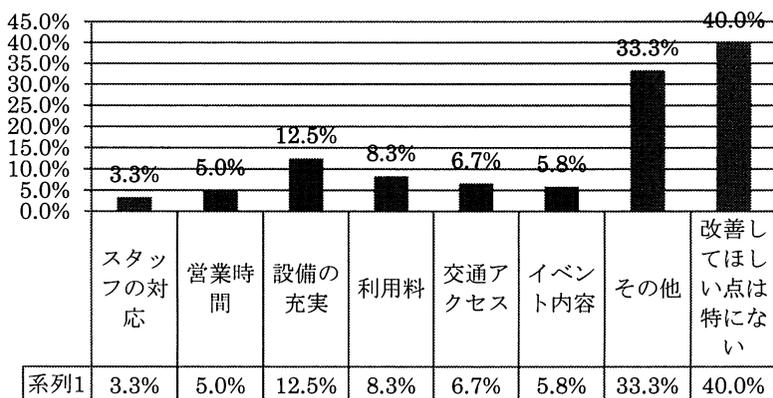


図8：子ども館の改善を要する点（複数回答可）(n=121)

上掲のように、「特にない」が4割と高い。また、次章で見るとこの傾向は2015年度調査とほぼ変わらない。ただし、改善を要すると指摘されているものの内特に「その他」は若干高く2015年度調査よりも数値としては上がっている。「その他」の内実を列挙すると以下の通りである。

表1：「その他」の内実

- 駐車場代がかかる
- 駐車料金
- 駐車場代がかかる
- おままごとや木のおもちゃがたくさんあって嬉しいです。大きい子も小さい子も安全に遊べたらいいと思います。良かったら、オムツやおやつなどの販売種類を増やしてください。スタッフ様の気配り、いつもとても助かります。本当にありがとうございます。
- 駐車場
- 駐車料金のサービスがあるとさらに良いです。
- 駐車場割引
- 駐車場の料金。買い物しないと料金が高いので思う存分子どもを遊ばせてあげることがしづらい。
- 駐車料金
- 駐車券サービス
- 駐車場
- シーモール駐車場のサービスチケットはあった方がいい。
- 駐車サービスがあってほしい

- 駐車場代
- 駐車場割引
- ごみ箱の設置。おむつなど捨てられないと不便。あとでリピエやシーモールのごみ箱に捨てるのだから、設置しないのは意味がないと思う。
- 水曜日にも開けてほしいです。
- 洗面所石けんが欲しい
- 駐車券のサービス券発行
- 駐車券
- 激しい遊びをする子を注意してほしい
- 駐車場
- 駐車場の料金。
- 特にありません。
- 駐車料金を無料にしてほしい
- 授乳室を初めて利用したが、カーテンが閉まっていた、利用していいのか分からなかったので分かりやすくしてほしい。私は結局、前の方が出てくるまで外で待っていたのですが、中に入って初めて椅子が3脚あり、一緒に使用できると気が付きました。
- 駐車場代は何とかしてほしい。せっかく利用料無料でも、通常通り駐車場代取られるとゆっくり遊べない。
- 授乳室を広くしてほしい。
- 駐車場代をどうにかしてほしい。
- 夏休み等人が多い時の注意喚起
- 駐車場代が気になります
- 駐車場無料券が欲しい
- 駐車場の料金
- 駐車代
- 駐車券
- 駐車場の料金（シーモール）
- 駐車場の確保。無料または割引。
- 駐車料金
- 駐車券配布はずっとしてほしい。
- 駐車代の割引できれば手洗い場に石けんがほしいです
- 駐車券のサービスを再開してほしい

2014年度・2015年度調査と同様に駐車料金に関して改善の要望が多い。なお、2015年度は、2015年度調査を実施した2016年1月より「当面」の間、プレイランド利用時に2時間分の駐車

割引券が配布されており（桑畑 2015）、しかし現在はまたサービスがなくなったため、それを受けて「再開」を望んでいる利用者が多いと思われる。

また、その他館への要望や意見を自由記述で尋ねたところ、以下のような結果が得られた。表1と同様に、駐車料金へのサービスを求める意見が多い。

表2：その他館への要望や意見

- 前のように駐車場のチケットがほしいです
- 水曜日も営業してほしい
- 100円／1回くらいは払いたい
- 水曜日も隔週等で営業してほしい
- 本館は無料だが、駐車場代がかかる
- 砂場がほしい
- 駐車料金サービスを対応してほしい
- とてもきれいで、子どもも大好きな場所になりました。ありがとうございます。ネットの中に風船があり、扇風機で飛ばす中に入るような遊びスペースが増えるとさらに嬉しいです。
- 駐車券がとても良かったのでまた復活してほしいです。施設利用はただで助かっています。
- 水曜日もあけてほしい
- 駐車場サービスがあると助かります。
- 以前のように駐車場1時間無料になると来やすい。
- 子ども用のいすが欲しい
- たくさん遊べていいですが、いればいるだけ駐車料金がかかるのが大変。また、砂遊び場があると、もっといいです。
- この利用者には駐車場を無料にしてほしい（1日中、もしくは5時間位など）。2時間の券の配布をしていたこともありますが、ここに来たら絶対2時間では終わりません。何時間でも安心して遊ばせたいです。子ども用トイレに荷物をかけるところがあるといいと思う。親も一緒に入っておむつを替えるので。食事スペースにも手洗い場があったらいいのに。食べる前と後に手を洗いたい。イベント利用中の託児は無料にはならないのでしょうか。イベント以外で託児を利用するとき、もう少し安くならないのでしょうか。滑り台はネットで上がるようになっているため、小さい子どもは上がれないので階段にした方がいいと思う。
- 駐車場代がかかるので、買い物等がなく純粋に遊ばせたいときは困ります。
- リトミックなどの教室を定期的にかけてほしい。一時預かりの時間を延長してほしい。
- 3年目になるのに、オープン当時のままきれいでいつ来ても気持ち良く利用できます。きっとスタッフの方々の心がけのたまものかと。せっかくクリーンな設備を維持していただ

いているので、掃除の様子なども時々ご報告あるとさらに安心して利用できるかなと思います。特に冬場は気になりますので。

- 駐車券配布再開してほしい。室内カートのようなおもちゃを置いてほしい。
- 滑り台がもっとほしい。ブランコも。
- なし。いつも大変満足しています。
- 未就学児の施設ですが、小学生が走り回ったり、年長児が遊具を乱暴に揺らしたりと、かなり危険に思う場面があります。親は見えてない(携帯してたりおしゃべりに夢中だったり)ことが多くあり、こちらも注意しにくいので放置されていることが多いと思います。職員の方で、巡回を強化していただき、きちんと指導していただけると、今よりも安心して子どもを遊ばせることができるようになると思います。
- スタッフの方が見回りをしてくれているので安心して子どもを遊ばせることができます。
- 駐車場代が高くてしまうこと。無料とまではいわないが、割引券など発行してほしい。オムツを捨てられるようにしてほしい。

他に目立つものとしては、現在は休館日である水曜日にも開館してほしいとの意見や、砂場を求める声がある。砂場については、後で示すように下関市の公園整備状況の不十分さを関連しているようにも思われる。また、駐車料金サービスを求めることに付随して見られがちな、「ふくふくこども館」を遊びの場として理解している意見も注意が必要であろう(結果 a1)。これについては最後に触れることとしたい。

続いて、ふくふくこども館そのものからは少し離れて、利用者たちが子育て上感じていることについて見ていきたい。

気軽に相談できる相手

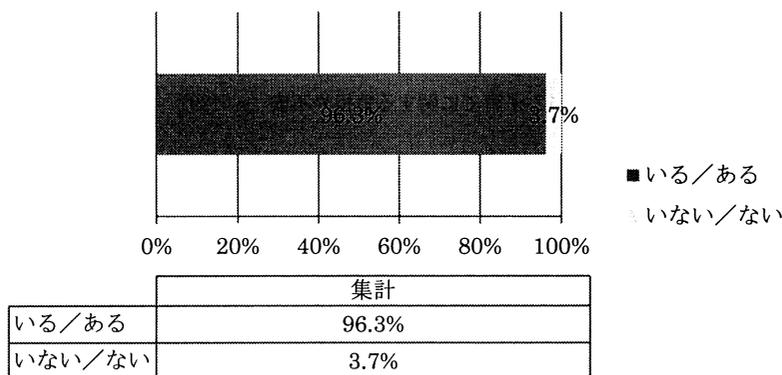


図9：子育てについて気軽に相談できる相手の存在 (n=139)

相談相手

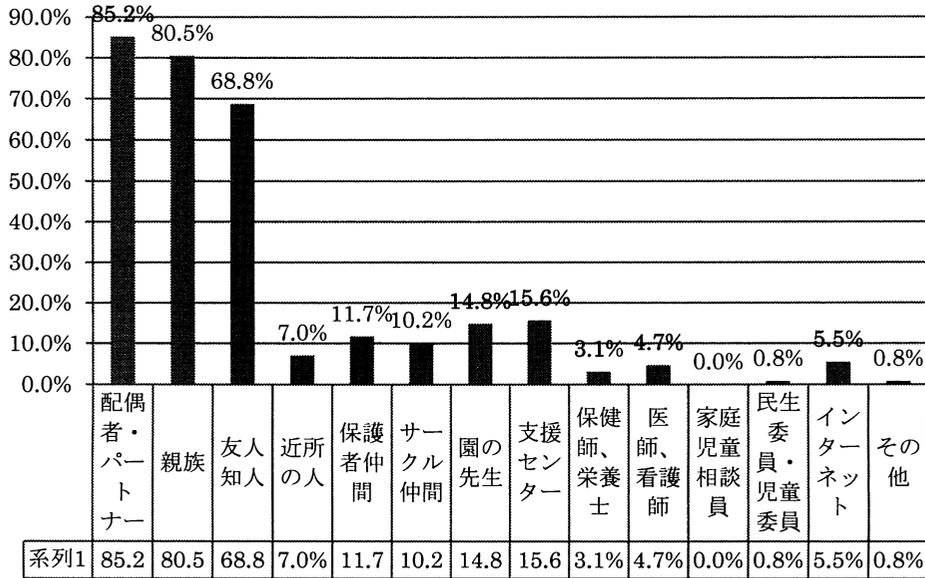


図10：相談できる相手の内実（前問に「いる」と答えた人のみ。複数回答可）（n=129）

子育てに関する不安や負担

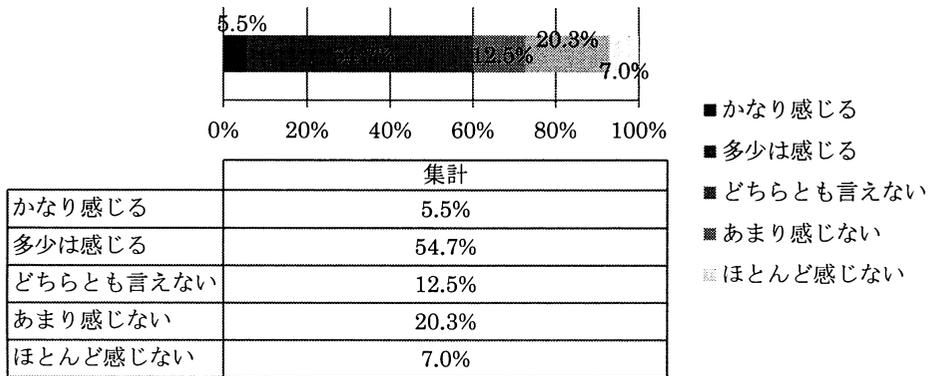


図11：子育てに関する負担や不安（n=129）

居住地域への満足度

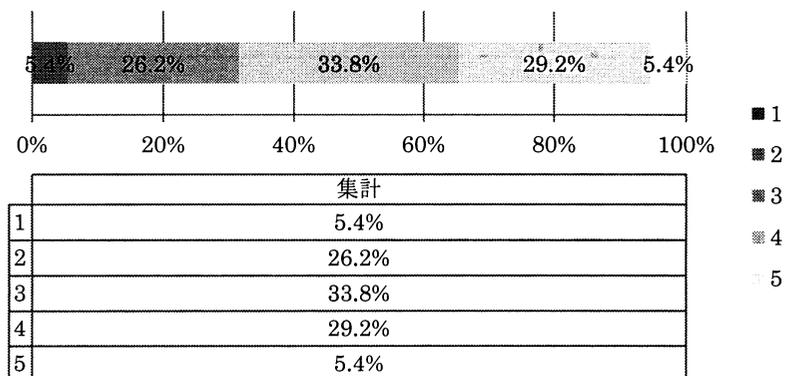


図 12：子育て環境における居住地域への満足度（5 が最高点）（n=131）

居住地域への満足度はそれなりにあるものの、一方で子育てに関する負担や不安を感じる回答者が多いことが分かる。

子育てについてほしい情報

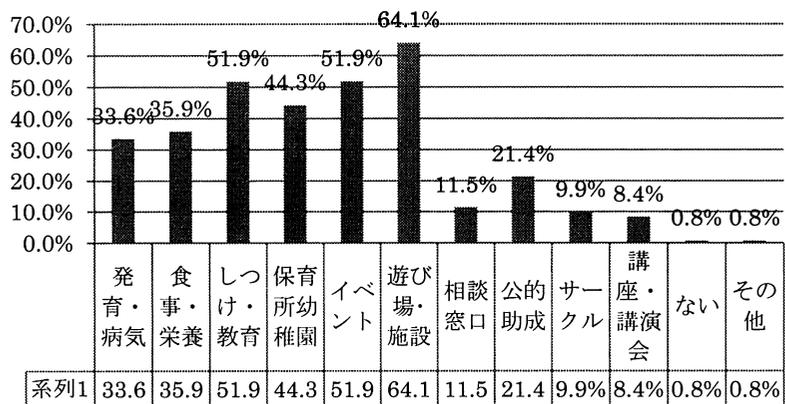


図 13：子育てについてほしい情報（複数回答可）（n=132）

情報源

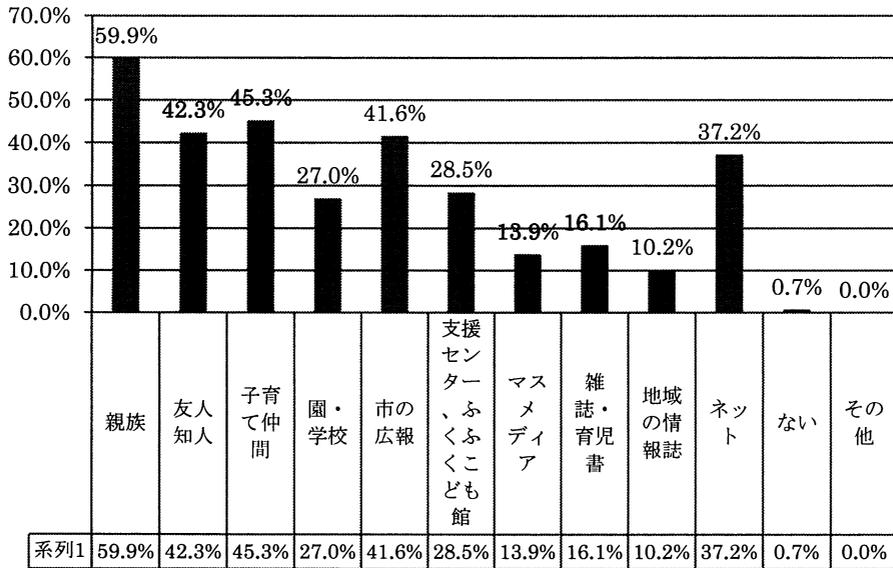


図 14：子育てに関する情報源（複数回答可）（n=138）

下関で困ること

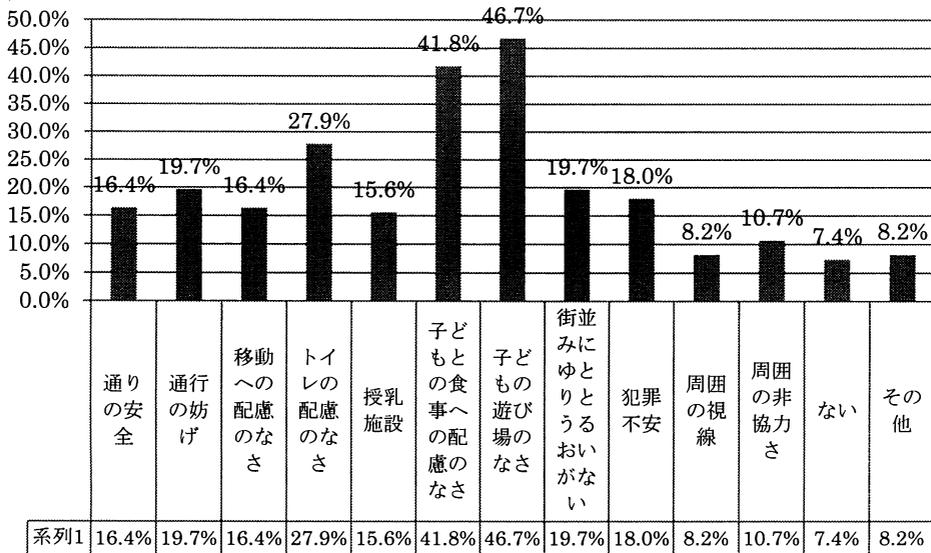


図 15：下関で外出時に困ること（複数回答可）（n=123）

子育て中の人々が求めている情報は「遊び場・施設」「子どものしつけ・教育」が高く、実際に下関で子育てをしていく上で困っている部分についても「遊び場のなさ」が高い。また、「食事への配慮のなさ」や「トイレへの配慮のなさ」などが高いことから、これらの部分で下関は子どもと外で活動することにおいて不便が生じるまちであることが分かる。先に結果 a1 として

示した、「ふくふくこども館」を遊びの場として理解し遊びの場として活用している回答は、こうした背景から生じていると思われる。

最後の設問として、下関で子育てをしていて感じることを自由記述で回答してもらった。結果は以下の通りである。

表3：下関の子育て環境に関する意見

- ふくふくのようにねんねやハイハイの子どもが安心して遊べるスペースをたくさん作ってほしい。
- 小さな子が安心して遊べる公園などが少ないので、ふくふくこども館のような施設が増えると嬉しいです。
- ふくふくこども館、よく利用させていただいています。広いので走り回ることができて、とても助かります。下関はもっと子どもと行ける大きな公園などがほしいです。特に1歳児など、小さい子どもと遊べる場所がほしいです。いつもありがとうございます。
- 広島に住んでいますが、こちらのような充実した施設はありません。参考にしたいです。
- 支所に子育てふれあいセンター等を設けてほしい。福岡、北九州などを見習ってほしい。子育てしづらい。子育て環境が悪い。不便さを感じる。他の県、市を見習ってください。
- 医療費助成が不足。先月、千葉県市川市より越してきたが、こちらの地域との支援に差があり、驚いた。改善が必要ではないか。
- 公園の環境が悪い。汚い。砂場がない。
- ふくふくこども館など無料の駐車場がなく、公共の乗り物利用しての移動もバス代高い。電車の駅（近隣の駅）がバリアフリー化されていなく、電車での移動も難しいです。
- ふくふくこども館は良いところだが駐車料がかかるのが残念で、買い物するにも、子どもは遊び終わったころにはもうぐったりして機嫌が悪くなるので難しい。大丸はエレベーターが少なすぎる。ベビーカーで散歩したりしていると意外と道幅が狭いことに気づかされました。それと、横断歩道と歩道に段があり躓いてしまう。深坂にドライブがてら散歩に行くが、平日は人がいなさ過ぎて2人で行くのは逆に怖い。もっと公園みたいになると良いと思う。白鳥とか見せてあげたいと思う。
- 公園が少ない。
- 安全できれいな公園がほしい。
- 下関市では、ふくふくこども館のような施設があり、良いと思いました。山口市でも作ってほしいです。なくて困っています。
- 近くに公園はあるが雑草が生い茂っていたり、犬のふんなどがあったり子どもを遊ばせられない。そういう公園が沢山あり、子どもが遊んでいる姿をほとんど見ない。もっときれいにしてほしい。車で遠くの公園に行かなければいけないので大変。
- 求職活動を理由とする保育園の使用は年に1回と限られているので今非常に困っています。

4月にそれで入園し、その後職業訓練をしていた。終了後、就職が決まっていなかったために退園しなければならなくなった。「求職活動」で再び保育園を継続するつもりだったが、間際になって1年に1回だと知らされた。職業訓練後は早く就職するようにとハローワークに言われるし、子どもがいては思うように動けないし…。だから、せめてひとり親の人だけでも、そのような制限をなくしてほしいです。保育園の一時預かりのこと、『ちゃいるど』に乗っている保育園で一時預かりをやっていると書かれているにもかかわらず、幡生保育園などは「やってません」と言われた。他も「いっぱい…」と断られる。実際はどこもやってないのではないだろうか。そういう情報をもっとわかるようにしてほしい。どうか、もっと、一時預かりしてくれるところが増えることを望んでいます。

- 病児保育がもう少し増えるといいと思います。児童クラブがもう少し広くなったり、夜7時までになると嬉しいです。
- 先日、上の子が小学校に入学し、初めての夏休みを体験しました。親子で参加できそうなイベントに参加したりして過ごしましたが、下の子がいるため、不便を感じるがありました。そういった際に、下の子のことも多少なりとも配慮があると助かります。また、土日は大体主人が休みなので、海やプールなど危険を伴う遊びに連れて行ってもらったりすることが多かったのですが、イベントが土日に重なって参加できないことも残念でした。夏休み中は平日のイベントの方が参加しやすかったです。
- 隣県からの利用のため、他の施設や支援については分かりませんが、ふくふくこども館はままごとやパズル、体を使った遊びのできる、とても良い場所だと思っています。それを無料で利用できるのはとてもありがたいです。今後も利用させてもらいます。
- ふくふくこども館は本当利用しやすく、車のない私にとってもバスで来やすくとても助かっています。このような遊び場がもっと増えてくれたらと願っています。
- 以前、下関の保育所で保育士をしていました。今回、こちらの施設で初めて遊びましたが、とっても良い施設があって、とっても子どもも喜んでいました。今は北九州に住んでいますが、このような環境が下関にあるので、うらやましいです。実家が下関なので、また遊びに来たいです。
- 下関市の一時預かり施設のことを教えてほしい。子どもクリニックはどこにあるのか教えてほしい。幼稚園、保育園の情報を提供してほしい。求人の情報が知りたい（子育てと両立しながら）。
- アスファルトがひび割れていて、車の移動で振動が多い。
- この施設は友人から教えてもらい利用させてもらっています。私は沖縄の離島に住んでいて帰省する時利用しています。自分が住んでいる地域にはこのような施設・設備がなく、いつもこのようなところがあればいいのになと思っています。子どもが遊べるだけでなく、育児相談ができる等書いてあり、自分が住んでいる地域もこういう県外の施設等参考にしてもっと子育て支援に取り組んでもらいたいと思います。帰省が終わって帰り、この施設

の話をもママ友にすると、「こういう施設作ってほしい」とみんな言っています。自分のところでも何かきっかけがあれば参考にさせてもらいたいと思っています。

- 乳幼児を持つ親としてはふくふく館のようなところは大変助かります。ただ、小学校4年生くらいまでは、親と行動することも多く、もう少し遊べる場所、学べる場所があると嬉しいです。
- 防犯にすごく興味があります。町中が監視しているという体制とアピールを行ってほしいです。
- 医療の無料はとてもありがたいが、すぐに病院に行く人が多くならないかが不安。回数制にするなどにした方がいいのでは？
- 子育て支援センターが少なく、あっても開放時間が短い。また情報が少なく利用しにくい。出産後のfollow、健診等のシステムが不明瞭（最近、他県より下関へ引っ越し）。公園が少ない、古い。
- 長府は第二保育園にあった子育て支援センターが今年からなくなってしまい、気軽に子育てのことを相談したりする人が減ってしまった。こどもの宙などはありますが、支援センターのように、いつも同じ職員の方がいて、同じ曜日に同じメンバーで通える方が、他のお母さんとも話す機会が多くあり、相談などしやすい環境だったのではないかと思います。以前のようなセンターのシステムがまた長府にできることを望みます。
- ふくふく館は気軽に来やすいのでよく来ます。児童館はいまいち入りにくいのでなかなか行くことができないので、もう少し気軽に行けるような雰囲気してほしいです。
- 電灯のない、切れているところが多く、子どもが一人で下校・塾の行き帰りなど心配です。

以上のように、やはり遊び場・公園の少なさと、そのために「ふくふくこども館」を活用している人々が一定数いることが分かる。すなわち「ふくふくこども館」とは、あるいは「ふくふくこども館」で提供されるべきと考えられている次世代育成支援とは、遊び場機能であるということがいえよう（結果 a1'）。また、単一の回答ではあるが、休職中のシングルマザーからの意見も注目に値しよう。制度の隙間に入り込んでしまった場合に、あるいは制度的情報から距離ができてしまった場合に非常に困難な状況に陥る人がいることが分かる（結果 a2）。

2016年度調査の結果の記述としては以上である。続いては、2014年度・2015年度調査の結果との比較を行いながら分析を進めたい。

3. これまでの調査との統合／比較

ここからは、2016年度調査と、2014年度調査・2015年度調査を統合しながら／比較しながら結果の記述を進めていく。なおここからは全ての設問について結果を記述するのではなく、主要なものに限って記述していくこととする。なお、2014年度調査・2015年度調査の調査概要につ

いては、桑畑（2014）（2015）を参照されたい。

まずは基礎項目について見ていく。

回答者の続柄

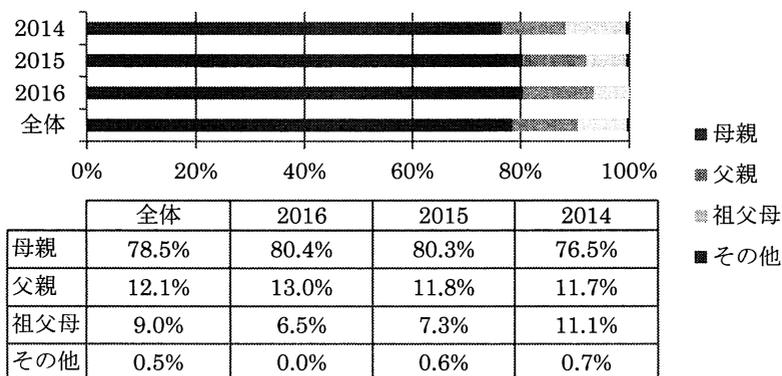


図 16：回答者の続柄（2014年度 :n=298、2015年度 :n=178、2016年度 :n=138）

回答者の居住地

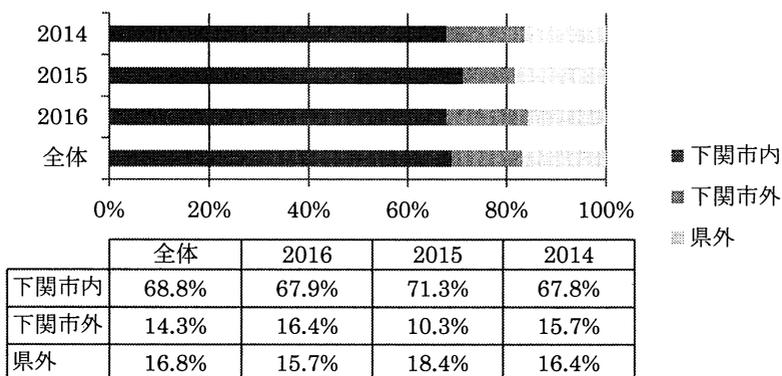


図 17：回答者の居住地（2014年度 :n=286、2015年度 :n=174、2016年度 :n=140）

回答者の就労状況

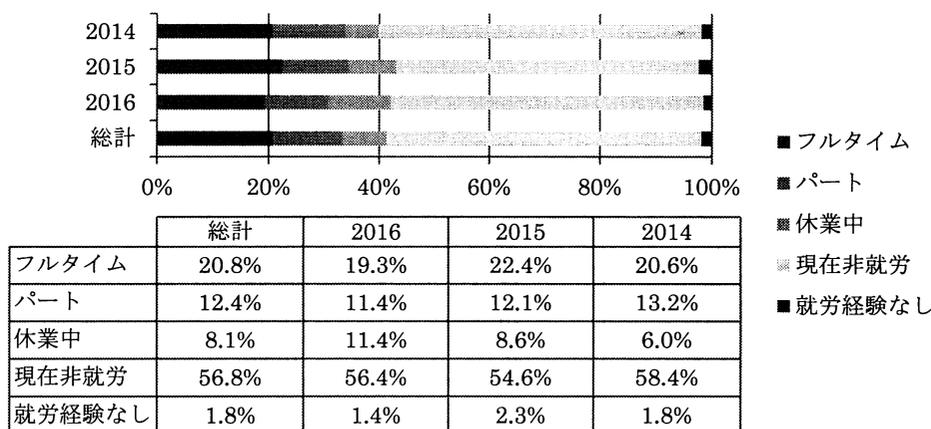


図 18：回答者の就労状況（2014 年度 :n=282、2015 年度 :n=174、2016 年度 :n=141）

回答者の続柄について見ると、祖父母が徐々に減ってきている。回答者の居住地と就労状況については、3回の調査でそれほど変化が見られない。

こども館を知った経緯

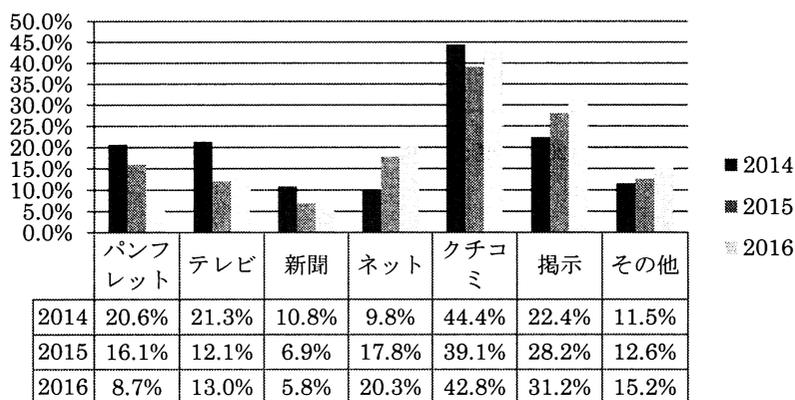


図 19：こども館を知った経緯（2014 年度 :n=286、2015 年度 :n=174、2016 年度 :n=139）

ふくふくこども館を知った経緯については、「パンフレット」「テレビ」「新聞」などの一定程度の範囲に情報を伝えるメディア経由での認知が明確に減り、「ネット」「掲示」が増えていることがうかがえる。

来館回数

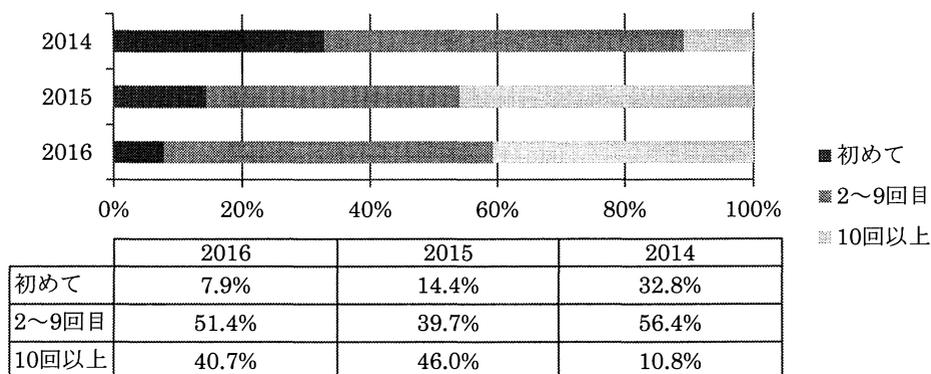


図 20：来館回数（2014年度 :n=287、2015年度 :n=174、2016年度 :n=141）

利用満足度

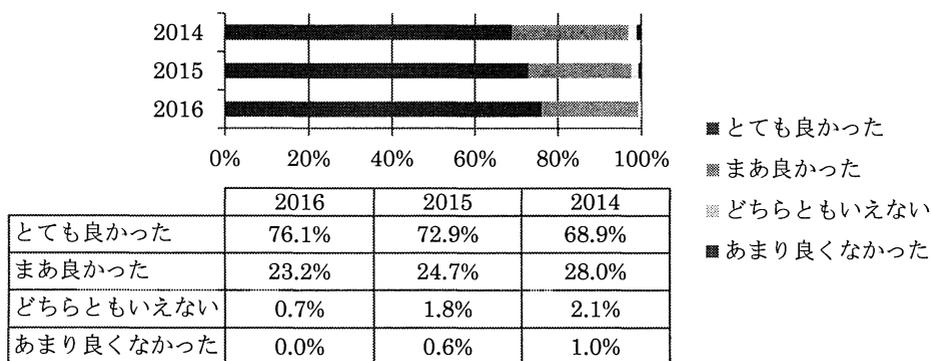


図 21：利用満足度（2014年度 :n=286、2015年度 :n=172、2016年度 :n=139）

来館回数も明確な変化が現れており、来館者の中でリピーターが占める割合が明らかに増えている。また、利用満足度も、特に「とても良かった」の割合が高くなっている（結果 b1）。

改善を要する点

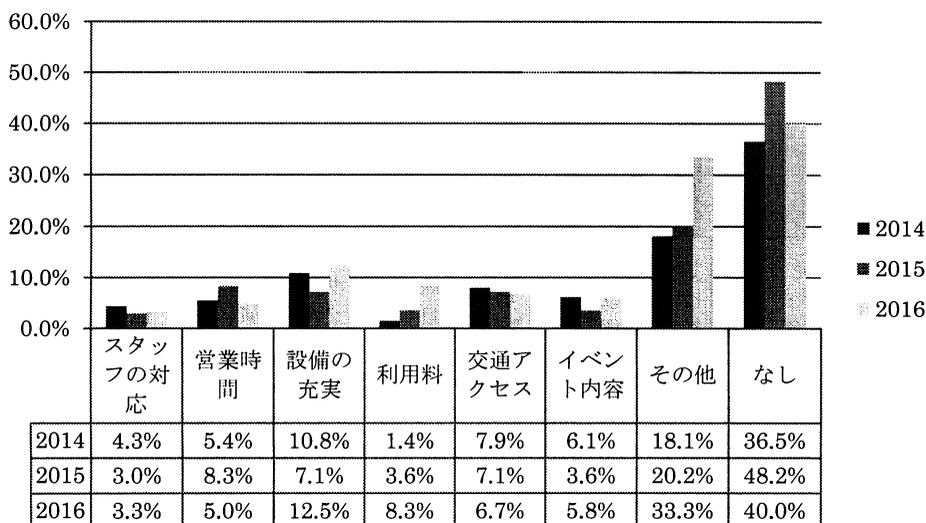


図 22：改善を要する点（2014 年度 :n=277、2015 年度 :n=169、2016 年度 :n=121）

2016 年度調査では「その他」が明らかに増えている。これは既に見たように、駐車料金の無料化や補助を求める意見が多いことが原因であろう。

最後に、回答者の子育て環境や、それに対する意識の変化を見てみたい。

相談相手

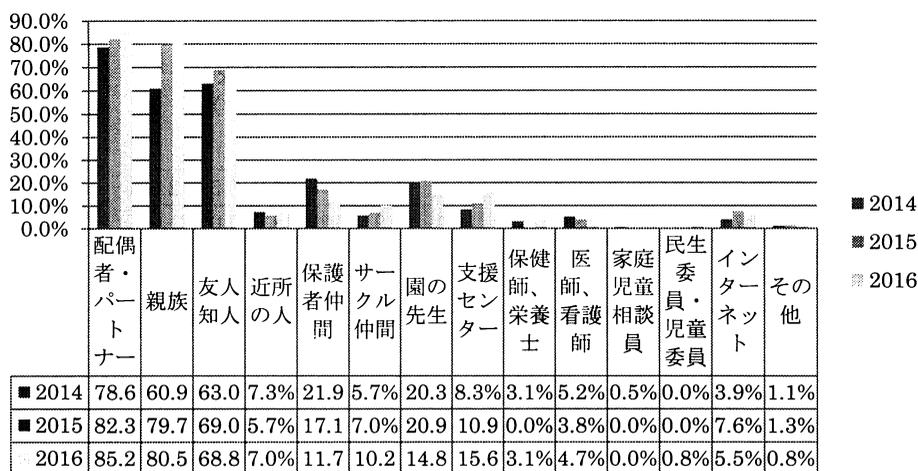


図 23：相談相手の内実（2014 年度 :n=263、2015 年度 :n=158、2016 年度 :n=129）

必要とする情報

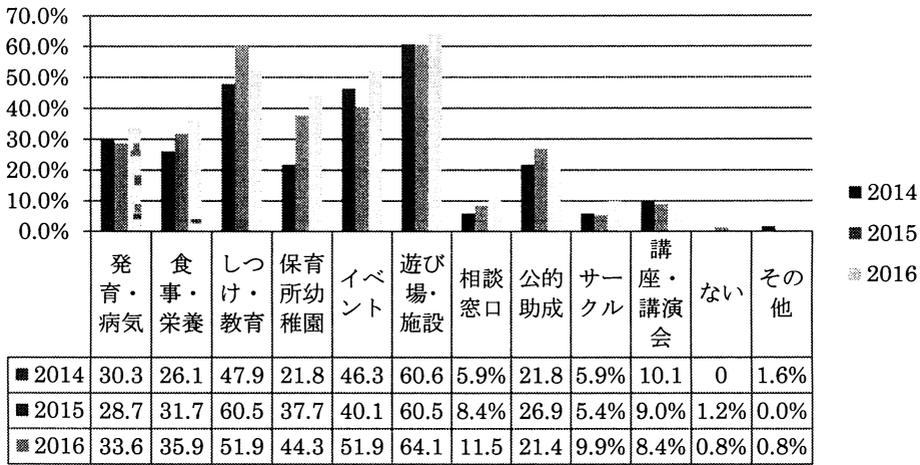


図 24: 子育てで必要な情報 (2014 年度 :n=261、2015 年度 :n=167、2016 年度 :n=132)

情報源

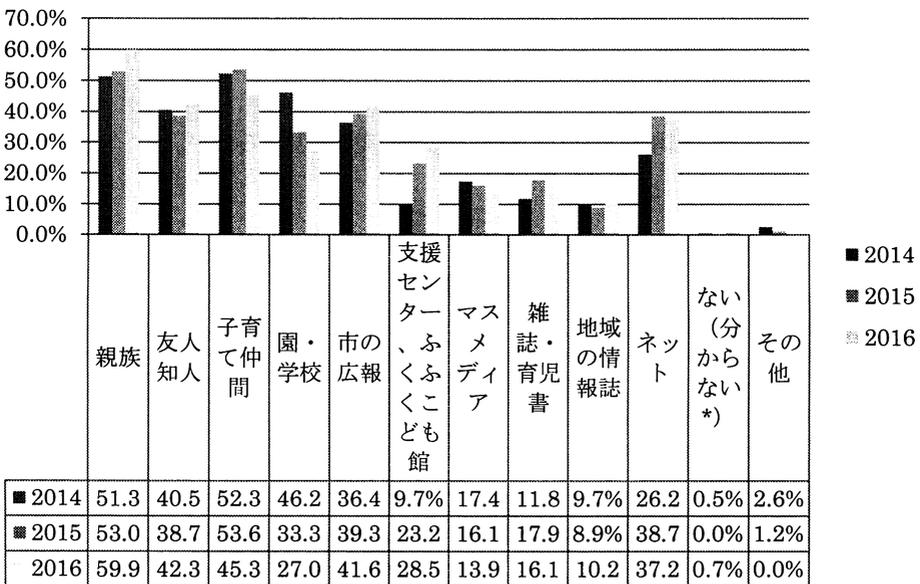


図 25 : 子育て上の情報源 (2014 年度 :n=274、2015 年度 :n=168、2016 年度 :n=138)⁽²⁾

一見して分かるのは、相談相手で「配偶者・パートナー」や「親族」などに頼る回答者が増加している一方で、「保護者仲間」や「園の先生」への相談が減っていることである。情報源としては「園・学校」が減り、「支援センター、ふくふくこども館」や「ネット」が増えている。園や学校のように、地縁的ネットワークからの情報やそこへの相談機会が減り、地縁的なものとは異なるネットワーク——血縁ネットワークや、支援センターのように主体的に開拓するネットワ

ーク——を活用していることがうかがえる（結果 b2）。また、必要とする情報では「保育所幼稚園」が増加傾向にある（結果 b3）。したがって、地縁的ネットワークが不要になっているわけではなく、必要だがアクセスできていない可能性がある。

また、問 12「子育てに関する不安感や負担感」を従属変数として、重回帰分析を行った。おれにより、子育てに関する負担感や不安感が何によって導かれているのかを明らかにしたい。母集団を「ふくふくこども館」利用者に設定したとしても、サンプリングが不十分なため検定を行う意義は薄い⁽³⁾、利用者の意識がどのように規定されているのか見てみた。使用したソフトは R である。結果は以下の表のとおりである。

表 4：「子育てに関するの不安感、負担感」の規定要因

Residuals:				
Min	1Q	Median	3Q	Max
-2.0867	-0.8412	-0.4156	0.9230	2.9741
Coefficients:				
	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t)
(Intercept)	2.43167	0.32324	7.523	2.45e-13 ***
回答者年齢	-0.11869	0.06594	-1.800	0.072477.
子ども数	0.18695	0.08432	2.217	0.027062 *
子ども年齢	-0.03306	0.03793	-0.872	0.383815
就労形態	-0.07883	0.04000	-1.971	0.049296 *
情報源数	-0.04894	0.03196	-1.532	0.126262
相談相手数	0.13576	0.03583	3.789	0.000170 ***
満足度	0.17803	0.05231	3.403	0.000718 ***

Signif. codes: 0 '***' 0.001 '**' 0.01 '*' 0.05 '.' 0.1 ' ' 1				
Residual standard error: 1.112 on 509 degrees of freedom (103 observations deleted due to missingness)				
Multiple R-squared: 0.0762,				
F-statistic: 5.998 on 7 and 509 DF, p-value: 9.913e-07				

説明力が低いモデルではあるが、以上の結果からすなわち、回答者年齢が低いほど（10%水準で有意）、子ども数が多いほど（5%水準で有意）、就労形態がフルタイムに近いほど（5%水準で有意）、相談相手数が多いほど（1%水準で有意）、満足度が高いほど（1%水準で有意）、不安感や負担感は低くなる（不安感、負担感「1」が高く「5」が低い）ため）ということである。このことから、「ふくふくこども館」利用者においては、子育てで困難を抱えがちな人々——子どもが多いとか、仕事と両立が必要であるとか、若年子育て者であるとか——が不安感・負担感を軽くできるような地域として認識されていることが推察される（結果 b4）。

最後に、子どもとともに外出する際困ることの変化を見てみたい。

外出時に困ること

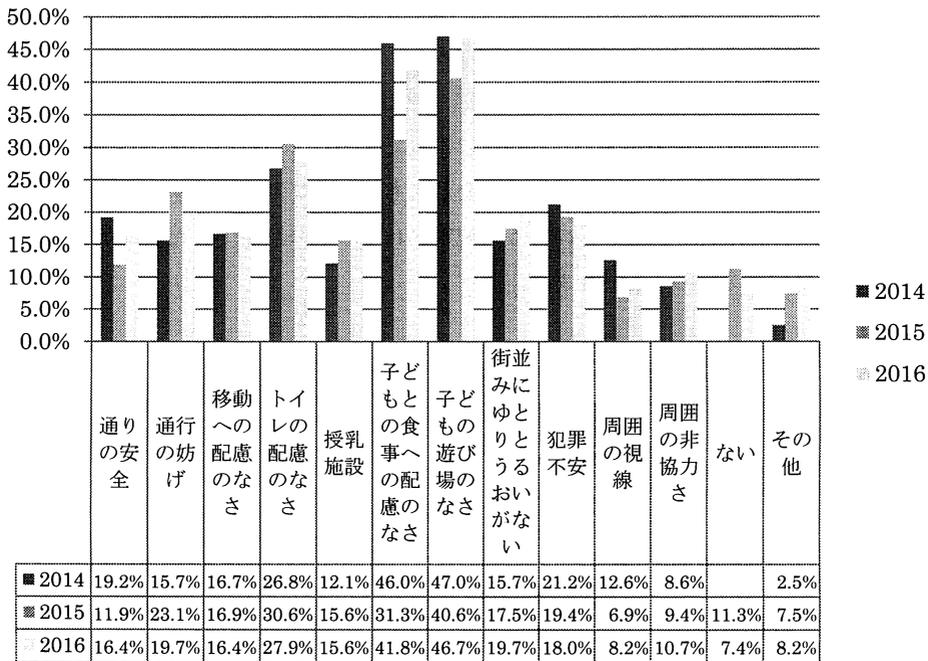


図 26：下関で外出時に困ること（2014年度 :n=274、2015年度 :n=160、2016年度 :n=123）⁽⁴⁾

注 4 で記したように、ワーディングが 2015 年度調査から変わっているため 3 年間の結果を純粹に比較することはできないが、それでもワーディングに変化がない 2015 年度調査と 2016 年度調査を比較すると、「子どもとの食事への配慮のなさ」「子どもの遊び場のなさ」が増加しており、一方で「通行の妨げ」は減少している。

4. おわりに

まずは本稿で見てきた結果をまとめたい。

表 5：調査から得られた結果の内重要なもの

2016 年度調査より	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふくふくこども館」／次世代育成支援＝遊び場の提供との認識（結果 a1'）。 ・制度の隙間に入り込んでしまった場合に非常に困難な状況に陥る人がある（e.g. 求職中のシングルマザー）（結果 a2）。
-------------	---

総合／比較分析より	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふくふくこども館」利用者はリピーターが占める割合が高まっており、満足度も上昇（結果 b1）。 ・相談相手・情報源として地縁的ネットワークが減少。血縁ネットワークや自主開拓するネットワークへ（結果 b2）。 ・しかし、地縁的ネットワークのニーズは高い（結果 b3）。 ・年齢が低く、子ども数が多く、働く時間が長く、相談相手が多く、満足度が高い人ほど、育児上の不安や負担感は低くなる（結果 b4）。
-----------	--

さてそれでは、以上の結果からどのような知見が導き出されるか。

第1には、遊びの場としての「ふくふくこども館」の地域的定着である。結果 b1 が示しているように、リピーターが来館者の多くを占め、しかも満足度も高く、地域において必要な施設として見なされていることが指摘される。またそれは、結果 a1' が示すように、子育て支援の中でも特に遊びの場として位置づけられ、「ふくふくこども館」は、遊びの場の機能を求める人々が繰り返し訪れており、満足されている施設であると言えよう。ただ同時に、遊びの場の提供は、次世代育成支援や子育て支援の中の1つにすぎず、また、「ふくふくこども館」が提供している子育て支援サービスの中においてもその1つに過ぎないことは注意が必要であろう。もちろんこのことは、「ふくふくこども館」がどのような施設であるべきか、あるいは公的に提供される次世代育成支援や子育て支援がどのようなものであるべきかという、規範的議論を経て決定されるべきものである。子育て支援施設として遊びの場の機能に特化する——少なくともそう認識されている——ことへの評価は一概には下せないが、あるべき形が見定められた上、それと実態が噛み合っているかどうかの検討も必要であろう。

第2には、下関で提供されている子育て支援サービスは、ある程度充実しているとはいえ完全ではないということである。結果 b4 が明らかにしているように、おそらく育児をしている保護者の多くをカバーする制度が準備されており——「ふくふくこども館」もその1つであろう——、多くの人々にとって育児上の不安感・負担感を軽減できるような支援が整備されているのであろう。しかし同時に、結果 a2 やあるいは結果 b2、b3 が示しているように、様々な制度的支援から零れ落ちてしまう少数派の保護者に対する支援の網や、あるいは、ニーズが比較的高い地縁的ネットワークにおける支援は未整備であることが推察された。こうしたことから、下関においては、より網の目を細かくした育児上のセーフティネットを整えていくことか、またあるいは網の目から零れ落ちかねない人々を早く把握し、そうした人々に対する弾力的な対応をしていくことが必要となるであろう。

本稿は、サンプリングの面において制約を抱えた調査を基にしたものではあったが、以上のよう検討されるべき結果と知見を得られた。このことは、冒頭に述べたように、福祉社会学的にも保育学的にも意義があろう。また加えて、下関という地域をより住みやすくするという社会

的な意義も有すものであるだろう。この結果をもとに、より子育てのしやすく住みやすい下関を構想する議論が展開されることを祈念して、論を閉じることとしたい。

文献

- 萩原久美子, 2006, 『迷走する両立支援——いま、子どもをもって働くということ』太郎次郎社エディタス。
- 菅田貴子・増田貴人・伴碧, 2009, 「青森県における子育て支援の実態と保護者のニーズに関する調査(1)——保護者へのインタビューから」『弘前大学教育学部紀要』102: 67-74。
- 勝浦範子・福岡欣治, 2003, 「子育て支援施設に対する市民ニーズの反映——『浜松こども館』に関する実践的研究」『静岡文化芸術大学研究紀要』4: 1-6。
- , 2004, 『『浜松こども館子育て支援アンケート2003』の報告——子育て支援ニーズに関する実践的研究』『静岡文化芸術大学研究紀要』5: 21-9。
- , 2008, 「市街地における子育て支援施設の役割と限界——浜松こども館の利用者特性から」『静岡文化芸術大学研究紀要』9: 65-72。
- 木脇奈智子, 2012, 「多様化する「子育て支援」の現状と課題——新たなニーズとそれに対応する事例から」『藤女子大学 QOL 研究所紀要』7(1):37-43。
- 桑畑洋一郎, 2014, 「下関における子育てニーズの現状——ふくふくこども館調査から」『子ども未来学研究』9: 3-17。
- , 2015, 「下関における子育て支援ニーズの実態調査——ふくふくこども館調査の経年分析を通して」『子ども未来学研究』10: 3-22。
- 松木洋人, 2013, 『子育て支援の社会学——社会化のジレンマと家族の変容』新泉社。
- 大津泰子, 2004, 「中間市における未就学児童に関する子育て支援——子育て支援ニーズ等に関するアンケート調査から」『近畿大学九州短期大学研究紀要』34: , 85-113。
- 武田真由美, 2007, 「A 県における在日外国人の子育てニーズに関する探索的研究——在日外国人保護者、行政担当者、支援者へのインタビュー調査から」『関西学院大学社会学部紀要』103: 115-27。

付記

本稿は、梅光学院学術研究助成「子育て支援施設利用者ニーズの変化に関する研究」の補助を受けている。また、ご協力いただいたふくふくこども館の皆様にもこの場をお借りして御礼申し上げたい。

注

- (1) 「6歳以上」を6歳として算出。
- (2) 2014年度調査では「情報の入手手段が分からない」という選択肢で、2015年度調査からは「情報の入手手段がない」になっている。
- (3) したがって、母集団を「育児中の保護者」と設定することはなおさら無理がある。
- (4) 2015年度調査からは「下関市でお子さんと外出する際、困ることは何ですか」という問いになった。2014年度調査には「下関で」の部分がない。また、選択肢に「ない」が加えられたのも2015年度調査からである。

付録：調査票

ご回答いただく方の状況についてお尋ねします。

問1 ご回答いただいている方はどなたですか。本日ご来館されたお子さんから見た関係でお答えください（○は1つ）。

1. 母親 2. 父親 3. 祖父母 4. その他（ ）

問2 ご回答いただいている方の年齢を教えてください（○は1つ）。

1. ～19歳 2. 20歳～29歳 3. 30歳～39歳
4. 40歳～49歳 5. 50歳～59歳 6. 60歳～

問3 お子様（お孫様）の年齢と人数を教えてください

1. 0歳 2. 1歳 3. 2歳 4. 3歳
5. 4歳 6. 5歳 7. 6歳以上

⇒お子様（お孫様）は全員で _____ 人

問4 どちらの地域にお住まいですか。

1. 下関市内（ ） 2. 下関市外（ ） 3. 県外（ ）

問5 ご回答いただいている方の現在の就労状況をお答えください（○は1つ）。

1. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度）で働いている
2. パート・アルバイト等（フルタイム以外）で働いている
3. 産休・育休・介護休業中である
4. 以前は就労していたが、現在は就労していない
5. これまで就労したことがない

本館についてお尋ねします。

問6 本館のことは何でご存知になりましたか（○はあてはまるものすべて）。

1. パンフレット 2. テレビ 3. 新聞
4. インターネット 5. クチコミ 6. 駅やシーモールなどでの掲示
7. その他（ ）

問7 本館のご利用は今回で何回目ですか（○は1つ）。

1. 初めて 2. 2回目～9回目 3. 10回以上

問8 今回本館を利用してどのように感じられましたか (○は1つ)。

1. とても良かった
2. まあ良かった
3. どちらともいえない
4. あまり良くなかった
5. まったく良くなかった

問9 本館に改善してほしい点がありましたら教えてください (○はあてはまるものすべて)。

1. スタッフの対応
2. 営業時間
3. 設備の充実
4. 利用料
5. 交通アクセス
6. イベント内容
7. その他 ()
8. 改善してほしい点はない

問10 本館への具体的なご要望がありましたら自由にお書きください。

子育て全般の状況についてお尋ねします。

問11 子育てをする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか (○は1つ)。

1. いる/ある ⇒ 問11-1へ
2. いない/ない ⇒ 問12へ

問11-1 問11で1に○をつけた方に お子さんの子育て(教育を含む)に関して、

気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか (○はあてはまるものすべて)。

1. 配偶者・パートナー
2. 祖父母等の親族
3. 友人や知人
4. 近所の人
5. 保育所・幼稚園の保護者仲間
6. 子育てサークルの仲間
7. 保育所・幼稚園の先生
8. 子育て支援センター
9. 保健師、栄養士
10. 医師、看護師
11. 家庭児童相談員
12. 民生委員・児童委員
13. インターネット
14. その他 ()

問12 子育てに関して不安感や負担感などを感じていますか (○は1つ)。

1. 不安や負担をかなり感じる
2. 不安や負担を多少は感じる
3. どちらともいえない
4. 不安や負担をあまり感じない
5. 不安や負担をほとんど感じない

